

製品名: BAF170 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07429**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	160kDa

抗原情報

遺伝子名	SMARCC2 SMARCC2; BAF170; SWI/SNF complex subunit SMARCC2; BRG1-associated factor 170;
別名	BAF170; SWI/SNF complex 170 kDa subunit; SWI/SNF-related matrix-associated actin-dependent regulator of chromatin subfamily C member 2
遺伝子 ID	6601.0
SwissProt ID	Q8TAQ2
免疫原	抗血清はヒト SMRC2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 361-410

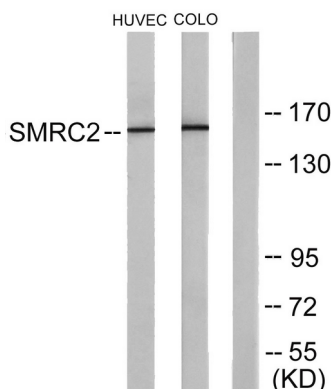
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、SWI/SNFファミリーのタンパク質のメンバーであり、このファミリーのメンバーはヘリカーゼおよびATPase活性を示し、これらの遺伝子の周囲のクロマチン構造を変更することで特定の遺伝子の転写を制御すると考えられています。コードされるタンパク質は、大規模なATP依存性クロマチンリモデリング複合体SNF/SWIの一部であり、多くの転写因子に典型的なロイシンジッパーモチーフを含みます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq提供、2008年7月]、機能: クロマチンリモデリング (DNAヌクレオソームトポロジーの変更) による特定の遺伝子の転写活性化と抑制に関与します。これらの複合体の触媒サブユニットのATPase活性を刺激できません。非神経細胞における神経特異的遺伝子プロモーターのCoREST依存性抑制に必要である可能性があります。また、ビタミンD受容体(VDR)によってリクルートされるクロマチンリモデリング複合体であるWINAC複合体との関連を介して、ビタミンD共役転写制御にも関与しており、これはCYP27B1遺伝子のリガンド結合VDR媒介トランスリプレッションに必要です。類似性:SMARCCファミリーに属します。類似性:1つのSANTドメインを含みます。類似性:1つのSWIRMドメインを含みます。サブユニット:6つの多タンパク質クロマチンリモデリング複合体の構成要素: Swi/Snf-A (BAF)、Swi/Snf-B (PBAF)、Brm、Brg1(I)、WINAC、およびBrg1(II)。5つの複合体はそれぞれ、触媒サブユニット (SMARCA4またはSMARCA2) と、少なくともSMARCE1、ACTL6A/BAF53AまたはACTL6B/BAF53B、SMARCC1、およびSMARCB1を含みます。また、各複合体に特有の他のサブユニットが存在する場合があります。BAF複合体の構成要素であり、少なくともアクチン(ACTB)、ARID1A、ARID1B/BAF250、SMARCA2、SMARCA4/BRG1、ACTL6A/BAF53、ACTL6B/BAF53B、SMARCE1/BAF57、SMARCC1/BAF155、SMARCC2/BAF170、SMARCB1/SNF5/INI1、およびSMARCD1/BAF60A、SMARCD2/BAF60B、またはSMARCD3/BAF60Cのうち1つ以上を含む。筋細胞では、BAF複合体はDPF3も含む。また、SMARCA2およびSMARCA4と連携して、SIN3Aヒストン脱アセチル化酵素転写抑制因子複合体と相互作用する可能性がある。WINAC複合体の構成要素であり、少なくともSMARCA2、SMARCA4、SMARCB1、SMARCC1、SMARCC2、SMARCD1、SMARCE1、ACTL6A、BAZ1B/WSTF、ARID1A、SUPT16H、CHAF1A、およびTOP2Bから構成される。SMARD1と相互作用する。組織特異性: 普遍的に発現する。

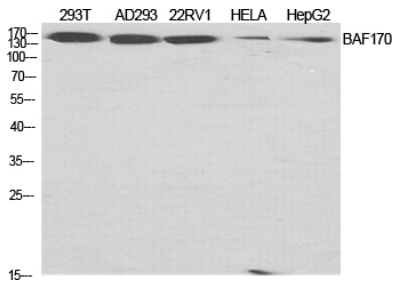
研究分野

-

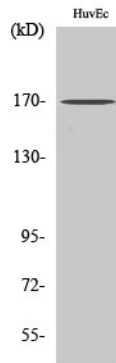
画像データ



SMRC2抗体を用いたHUVECおよびCOLO205細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 に希釈した BAF170 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。



1: 2000 に希釈した BAF170 ポリクローナル抗体を使用した COLO205 細胞のウエスタンブロット解析。